

第1回小中学生検討会（こどもモニター）活動報告

- 1 日時 令和3年10月10日（日） 10時～12時
- 2 場所 松戸市教育委員会 5階会議室 6階会議室
- 3 出席者 松戸市こどもモニター 小学6年生7名 中学2年生16名
- 4 検討会の概要

標準服（制服）のあり方を検討していく上で、児童生徒の意見を幅広く取り入れていくことを目的に活動を行っています。「多様性の尊重」という視点から、いろいろな人にあった標準服（制服）のあり方について検討を進めています。

○こどもモニターについて

こどもモニター制度は、子ども達から市政に対する要望や意見を、市政に反映させることを目的に、昭和49年に発足した制度です。メンバー構成は、小学6年生12名（市内の子ども会推薦者7名、公募5名）、市内22の公立私立中学校から、中学2年生各1名ずつ22名が学校長推薦にて委嘱されています。

第1回小中学生検討会の活動の様子



小学生は主に「多様性の尊重」について、グループに分かれて話し合いを行いました。身近な事例について意見交換をする中で、物事を進める際にはいろいろな立場の人に寄り添いながら考えることの大切さに気付いていました。話し合いの最後には、多様性を尊重していく上で、様々なちがいやお互いの個性を認め、理解することが重要だという意見が多く聞かれました。その後の標準服展示会では、学んだことを踏まえて、各メーカーの標準服を意欲的に参観しました。



中学生は、清掃時間のより良い取り組み方など学校生活を事例にあげて多様性について話し合いました。それぞれの学校の様子が分かり、刺激になったようです。それぞれの発表者の意見にうなずきながら真剣に聞く姿が印象的でした。自分の意見を持つこと、それと同時に相手の意見を尊重することの大切さが伝わってくれたら、と思います。



その後の標準服（制服）展示会にも意欲的な態度で各メーカーの説明を聞いていました。



児童・生徒たちの意見・感想

小中学生の検討会の中で、実際に児童・生徒からあがった意見や感想の一部をご紹介します。

○小学生

「多様性の尊重」の考え方は、なぜ必要なのだろうか？

- ・「多様性の尊重」＝「ちがいの尊重」 ちがうからこそいい、社会が成り立っている。
- ・色々な人がいて、みんな同じ人なのだから、接し方などは、みんな平等であるべきで、考え方が違うとか、障害者だからさけることはよくないから。
- ・多様性を尊重しないと、障害者というだけで良い仕事に入れなかったり、女だから、男だからなどという性別における差別も生まれたりしてしまうから、それぞれの人たちが認め合うことが大切だと思う。

感想・振り返り

- ・多様性の尊重について自分一人だけでなく他の人の意見を聞くことで考えが広がり新しい考え方をすることができて非常にいいきかいになりました。
- ・男子は重い荷物をもつ、女子は細かい作業というイメージが私にはあったけど、考えてみれば先生（学校）は「力持ちの人」や「きょうな人」といって、男子や女子とよんでいなかった。そういうふうには決めつけしないで、たくさんの人をみとめてあげるのが大切なことだと思った。
- ・多様な人種、個性を尊重することが大切なのだと思う。
- ・自分よりも、考えが広い人たちが多く、すごいと思い、次にみんなで集まる時には、もっと多様性の尊重を大切にして、やっていきたいと思いました。

○中学生

あなたが考える「多様性」とは・・・

- ・自分らしさや自分の個性
- ・お互いの違いを理解してその違いを受け入れて相手を尊重すること
- ・多様性とは、「〇〇だ」と決めつけないことも多様性では？
- ・他の意見を肯定するかどうか
- ・これからの社会に必要な言葉
- ・様々な種類や場面に対応できるもの

感想・振り返り

- ・多様性という言葉に対する考え方もそれぞれだったので面白かったです。標準服（制服）のあり方について考える良い機会となりました。
- ・展示会を見て、今の標準服（制服）と比べて、デメリットだと感じたものが全てメリットに変わる気がしました。動きやすさや通気性など今抱える悩みが解決されてると思います。
- ・今日話し合っただけでも自分と相手の持つ価値観は異なると思ったし、理解を深めることは大切だな、と思った。